

今後の県立高校に関する地域検討会議（宮古地区）
意見交換の記録（要旨）
【宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村】

令和 7 年 6 月 5 日（木）
宮古地区合同庁舎 3 階大会議室

佐藤 信逸 山田町長

- ・ 現在の県立高校再編計画においては、1 学級校を可能な限り維持する等、柔軟な対応を行うこととしており、今後も同様の対応を検討していただきたい。
- ・ 高校と地域の連携強化のためには、地域連携コーディネーターの配置が欠かせないものとする。
- ・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。
- ・ 次期県立高校再編計画においては、入学者の 2 年連続 20 人以下での募集停止基準の撤廃や、各学校の定員数の調整をお願いしたい。

中居 健一 岩泉町長

- ・ 持続可能なまちづくりためには、高校と病院の維持が不可欠である。本町は、本州一広い面積を有する地域であることから、高校の存続について配慮していただきたい。
- ・ 人口減少は国家存亡の危機であり、市町村と県が連携した総合的な対策が必要である。高校教育についてもその一つとして議論をしていくべきではないか。
- ・ 岩泉町では高校存続のために、通学支援等も含め様々な財政支援を実施している。県の具体的な通学支援策の内容について伺いたい。
- ・ 令和 8 年度からいわて留学にも本格的に取り組むこととしているが、県教委としても市町村に対する支援を実施していただきたい。
- ・ 現在の特例校については、今後も維持していただきたい。

佐々木 靖 田野畑村長

- ・ 地理的要因により進学の実選択肢が限られるため、進学を断念する生徒を出さないよう、岩泉高校の維持を強く要望する。
- ・ いわて留学について、県内で生徒を奪い合うのではなく、全国から受け入れる仕組みは重要であり、その際、岩泉高校の寮や郷土芸能は大きな魅力となる。
- ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。
- ・ 水産業に関わるニーズもあることから、水産高校の振興発展に向けての努力を期待する。

伊藤 重行 宮古商工会議所 専務理事

- ・ 商工会議所の景況調査によると、令和 4 年以降、労働力不足が常態化している。高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。
- ・ 宮古商工高校の工業学科のカリキュラムでは、実践的な教育内容が不足していることから、地域の特色ある産業に対応したカリキュラムとすることも必要ではないか。その際は、地域の要望等を聴く機会を作っていただきたい。

前田 宏紀 田老町漁業協同組合 参事

- ・ 宮古北高校のような小規模校は、地域との関わりが深く地域社会に貢献しているため、そういった特色を考慮して存続させて欲しい。
- ・ 水産業も人材不足が深刻であることから、宮古水産高校を統合する場合でも、水産の学科は維持し、地域産業に必要な人材の育成を継続するべきである。

山崎 淳一 山田町商工会 会長

- ・ 山田高校を存続させて欲しいというのが本音ではあるが、少子化に伴う統廃合もやむを得ないと考えている。
- ・ 山田町の祭りへの中学生の積極的参加が、地域愛を育む重要な役割を果たしている。
- ・ 数年前の中学３年生へのアンケートでは、多くが地元に残りたいと回答した。そうした希望に大人が応えるためにも、町の存続への取組を強化していく必要がある。

菊地 敏克 三陸やまだ漁業協同組合 代表理事組合長

- ・ 少子化により漁業従事者が減少していることから、小中学校で漁業体験学習を実施し、若者が漁業に興味を持つ機会を増やしている。
- ・ 高校進学率は99%と高いが、高校卒業後に地元の企業等で働けるような学びの方法を検討していただきたい。

早野 崇 有限会社早野商店 代表取締役

- ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の実選択肢として魅力を持たせるべきである。
- ・ 将来的な人口減少を考慮し、工業、商業高校を集約した上で、寮整備等の通学支援により学習環境を確保するべきではないか。
- ・ 水産業は加工、流通も含めた成長産業であり、水産高校と商業高校を統合して、商品化まで含めた教育を推進していくべきである。
- ・ 半導体学科の新設を内陸だけでなく沿岸部にも設け、地域の子どもたちが将来Uターンして地元産業を活性化できる環境を整えるべきではないか。

加藤 榮喜 農業

- ・ 農業は工夫次第で収益を上げられるが、品目選定が重要である。
- ・ 小学生への農業体験学習を通じて、農業の魅力を伝える取組を実施している。自分で植えた作物を収穫する喜びが農業の魅力である。
- ・ 農業、水産業、商工業が地域の基盤であり、活性化には一次産業の振興が不可欠である。

熊谷 吉秀 田野畑村森林組合 代表理事組合長

- ・ 林業は高収益性があるものの、危険な職業として若者に敬遠されることから後継者育成が重要な課題となっている。
- ・ かつては寮生活によって自立心が育成されていたが、現代の子どもたちは挫折しやすい傾向がある。
- ・ 長期ビジョンの内容については素晴らしいと感じているが、現状も踏まえながら進めていく必要がある。
- ・ 子どもたちが「親の仕事を継ぎたい」と思える環境づくりが不可欠であり、産業の魅力を伝える教育施策を検討していただきたい。

小野寺 康仁 宮古市PTA連合会 会長

- ・ 長期ビジョンに関し子どもから意見を聴いたとのことだが、約 5600 件の回答があったとのこと
で、子どもたちの関心の高さが示されていると感じた。今後も継続的に意見を聴取していただき
たい。また、長期ビジョン策定の参考とした意見の内容について教えていただきたい。
- ・ 宮古市の人口減少が進む中、持続可能な地域づくりの実現性に疑問を感じている。現実的な対応
策の検討が求められる。
- ・ GIGA スクール構想により学習環境は向上したが、教育機会の公平性についてさらなる議論が必要
ではないか。
- ・ 宮古市のコンパクトシティ構想など、各自治体の計画を考慮した県立高校再編計画として欲しい。

大石 裕治 山田町立山田中学校PTA 会長

- ・ 地域の中学生は地元愛が強いが、高校進学時の選択肢として山田高校の優先度が低い状況である。
宮古地区の高校の定員を調整し、適正な生徒数の確保が必要ではないか。
- ・ 宮古高校や宮古商工高校への進学希望が高く、定員を適正化しなければ山田高校の生徒数減少が
続くと思われる。

金澤 辰則 岩泉町立小本中学校PTA

- ・ この会議の参加者に女性がいらないことに違和感がある。多様性が求められている中、女性の声を
反映する必要もあるのではないか。
- ・ 各校で魅力化に取り組んでいるが、存続のために魅力化を進めているように感じるので、発信方
法の工夫が必要ではないか。
- ・ 地方や小規模校でも多様な経験ができることを発信する必要があるのではないか。また、顔が見
える環境が地域の魅力でもある。

伊藤 晃二 宮古市教育委員会 教育長

- ・ 久慈翔北高校、高田高校の水産の学びを宮古水産高校に集約する必要があるのではないか。それ
ぞれの地区では抵抗感も少ないと思われるので、水産の学びの集約を検討していただきたい。
- ・ 宮古商工高校、宮古水産高校の一体整備については、新しい校舎建設が魅力化の向上にもつなが
ることから、早期に対応をしていただきたい。
- ・ 宮古恵風支援学校の交通アクセスに課題があることから、新たな環境での学びの場の整備が必要
である。宮古北高校や宮古市内の閉校した学校の活用も含めて検討していただきたい。

松葉 覚 山田町教育委員会 教育長

- ・ 中学生は将来の職業だけでなく部活動の継続を考慮して高校を選択している。
- ・ 決められた部活動のみでは選択肢が狭まるため、自由度の高い部活動環境や高校間交流の可能性
についても検討していただきたい。
- ・ 部活動の地域移行は地域展開という言葉に変わってきている。地域展開となれば高校生にも当て
はまっていくと思われるので、部活動の在り方についても検討していただきたい。

巖岩 千裕 岩泉町教育委員会 教育長

- ・ 岩泉高校については、学習指導や生徒指導への対応のためにも 2 学級維持が必要である。
- ・ 小学校から高校への連携を強化し、子どもたちが地元の高校に憧れを持つ環境づくりを進めるこ
とが重要である。
- ・ 岩泉町の中学生は、様々な地区の高校に進学している。それと同じように、岩泉高校の魅力を発

信し、様々な地区から進学先として選ばれる学校になればよいと考えている。

- ・ 岩泉高校の寮を町が活用できるよう、県施設の払い下げを要望したい。

藤岡 宏章 田野畑村教育委員会 教育長

- ・ 長期ビジョンにおいて6次産業化の記載があることは評価する。一方で、6次産業化に対応した教育課程を組むのであれば、例えば、農業については6地区の中に空白地区があることに疑問がある。地域産業と生徒ニーズを引き合わせるような考え方があってもよいのではないか。
- ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。
- ・ 単位制導入については、中学生も興味を持つ部分であることから、詳細について丁寧に説明していただけると、中学生の進路指導に役立つと思われる。

一ノ倉 眞吾 宮古地区中学校長会（宮古市立宮古西中学校長）

- ・ 宮古地区では多様な高校があるが、生活に困窮する家庭も多い。そうした家庭の生徒は、地元の高校を選択する傾向にある。
- ・ 少子化により学級数を減らす必要があることは理解するが、学校の廃止はそうした家庭に影響が大きいことから慎重に判断していただきたい。
- ・ 特別な支援を必要とする生徒や別室登校の生徒が増加しており、単位制・通信制高校を選択する傾向があることから、次期県立高校再編計画の中でも配慮していただきたい。

山本 正徳 宮古市長

- ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
- ・ 宮古地区の中学生の約80%が市内の高校に進学しており、盛岡地区や私立高校等にも進学している生徒がいる。また、通信制や特別支援学校へ進学している生徒もいる。
- ・ 宮古水産高校では、新しい実習船の竣工や養殖実習などで水産高校の魅力が強化されている。そうした、興味を持つ生徒が進学しやすい環境整備が必要である。
- ・ 経済状況に関わらず、全ての生徒が平等に教育を受けられる環境の整備が、学校存続に繋がると考える。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 通学支援については、長期ビジョンに具体の支援策は記載していないが、公共交通機関の利用補助やバス運行、寮整備などを検討していく予定である。
- ・ いわて留学については、今年度、民間団体に委託し、マッチング機会の充実や受入環境整備について地元自治体に助言等の支援を実施する予定である。
- ・ 現行計画においては、募集停止基準として2年連続20人以下という基準を設定しているが、教育の質確保のため、最低20人の生徒数が必要であるとしているものである。
- ・ 学科改編については、条例改正を伴わないコースの設定という方法もあり、今後一体整備される宮古商工高校と宮古水産高校では、6次産業関連科目などの導入も期待される。
- ・ 私立高校の無償化については、今後も影響を注視し、対応を検討していく。
- ・ 子どもからの意見聴取において、関心のある項目として、「職業に関連する学習」、「主に大学進学を目指す学習」、「自宅から通える学校」といった項目が上位であった。特に、「自宅から通える学校」に対しては、今後、対応を検討していきたい。
- ・ 各市町村の県立高校に対する支援に対して感謝を申し上げる。

佐藤 信逸 山田町長

- ・ 高校授業料無償化に伴い私立高校への進学が集中することを懸念している。県教委でも県立高校の棲み分けについて考慮する必要があるのではないか。
- ・ 募集停止の基準である 20 人については、柔軟な対応が必要であり、地域の特性や人口減少を考慮する必要がある。

熊谷 吉秀 田野畑村森林組合 代表理事組合長

- ・ 計画の検討に当たっては、生徒の声を直接聞く機会として、生徒会の生徒を集めて話を聞く機会があってもよいのではないかと。

金澤 辰則 岩泉町立小本中学校 P T A

- ・ 県内から県外に進学している生徒の人数は把握しているのか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 宮古地区の 3 か年平均では、県外に進学している生徒は 3.3 人となっている。